



●書籍のご購入や内容等については最寄りの書店や発行元にお問い合わせ下さい



『バッタを倒しにアフリカへ』

定価 1,012円 (本体 920円+税)

『バッタを倒すぜアフリカで』

定価 1,650円 (本体1,500円+税)

前野 ウルド 浩太郎 著

光文社 刊

食べられたいとまで願う著者の破天荒な行動やリサーチに大笑いさせられる。一方で、任期付き研究者としての不安定な立場に悩む姿が、博士号取得後のキャリアパスが確立されていない日本学術界の問題を浮き彫りにする。へこたれない著者は無一文になればビジネス雑誌に記事を執筆し、数万人のオンラインユーザーが視聴するニコニコ学会βに出演し、広い社会にバッタ研究の重要性を訴える。果ては京都大学次世代研究者育成支援事業に選出される。人生を輝かせるのは陽気な矜持なのだ。

続編の『バッタを倒すぜ アフリカで』では解明したサバクトビバッタの繁殖行動を細説。これにより、集団産卵の時期をねらって害虫駆除を効率化できる可能性が見えてきた。食料安全保障に資する貴重な研究だ。著者の天賦の才である虫への愛着と認知的共感こそが、害虫の多彩な生理的行動を明らかにし、人類生存の鍵となっていく気がしてならない。

(日本農業新聞 齋藤 花)

アフリカの半砂漠地帯で大量発生するサバクトビバッタは群れをなして移動しながら農作物を食べ尽くす。国連食糧農業機関によると、一日の飛来距離は130km。2020年からは繁殖が広範囲に広がり、南西アジア地域でも農作物が被害にあっている。

そんな世界の食料安全保障を揺るがすサバクトビバッタの生態研究に心血を注ぐ若き日本人学者・前野ウルド浩太郎氏が、アフリカでの奮闘の日々と成果をまとめたのが本書2冊だ。

『バッタを倒しにアフリカへ』は、著者が西アフリカのモーリタニアでサバクトビバッタの生態を研究する話で、現地の人たちとの突飛でおかしくて胸にこたえるような交わりや砂漠での過酷な調査がユーモアたっぷりに綴られ、25万部突破のベストセラーとなった。

バッタに執念を燃やし、バッタに